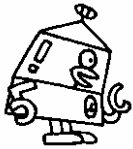


小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /
魚の卵の成長 / 理解シート

人間が飲む水道水を、なぜ魚の水そうに使ってはいけないの



水道水に入っている^{えんそ}塩素は、人間にとってはわずかな量
だけど、その中でくらす魚には害をあたえるのさ。

水道水にまじっている塩素の量は、百万分の1

水道水は、川の水をさまざまな方法できれいにし、さらに^{さっきん}殺菌力の強い塩素ガスをふきこんであります。細菌がまぎれこんでいても、塩素の殺菌力で消毒されて、飲んでも安全な水になっているのです。

まじっている塩素の量は、百万分の1～4ぐらいです。体の大きい人間が、水道水ががぶ飲みしても、こんなわずかな塩素の量しかふくまれていないので、ほとんど何も起こりません。また、水道水の中の塩素は、熱せられると空気中になげいくため、料理などに使われても、食べるときには塩素はぬけています。

長い間、空気中にさらされていても、少しずつ空気中になげいくため、くみ置きした水道水は、塩素がぬけて水そうにも使えるようになるのです。

水中でくらす魚には、塩素は有毒

水中の魚などは、呼吸^{こきゅう}をするのも、食べたり飲んだりするのも、みんな水を通して行っています。たとえば、魚の呼吸は、たえず口から水を飲みこみ、その水がえらを通るとき、水中にとけている^{さんそ}酸素をえらの血管に取り入れています。だから、わずかにとけこんでいる塩素でも、体に取り入れられる量は、人間が飲み水でとるより多くなります。しかも、たいていの魚は、人間より体が小さいですから、塩素から受ける害も大きくなります。

水道水を水そうに使うときは、2～3日くみ置きして塩素をとばすか、ハイポ(チオ^{ちゅうわざい}リゅう酸ナトリウム)とか中和剤とよばれる薬品(薬局やペットショップで売っている)を入れます。

くみ置きした水道水って、塩素が
にげた水のことだったんだね。

